

I. はじめに

1. 研究の目的

平成16年のG8シーアイランドサミットにおいて日本の提唱した「3R イニシアティブ」を一層進めるため、平成20年のG8環境大臣会合で合意された「神戸3R行動計画」、アジア等における循環型社会の構築に向けた日本の行動計画「新・ゴミゼロ国際化行動計画」が推進されている。さらに、平成20年10月の第1回東アジアサミット環境大臣会合において日本が提案した「アジア3R推進フォーラム」をベースにして、今後、アジア全体における3Rの推進と循環型社会の構築が図られることとなっている。

そのためには、日本における3R制度・技術・経験を精査し、アジア諸国等がそれぞれの社会・経済・文化等の諸事情に即して、適正にインタプリートした上で伝えられるべきである。そこで、平成20、21年度に行った日本の3R体験の変遷に関する研究の成果を踏まえ、本研究を実施した。

2. 研究方法・体制

文献調査、廃棄物資源循環学会との共催によるセミナー開催等*を通して、幅広い情報集積や意見交換に努めながら、平成20、21年度の研究で明らかにされた日本の3R展開を支えてきたもの、国のリサイクルに係る産業政策、自治体の関与指導状況、集団回収を可能にしてきた町内会、資源回収業界の役割等に焦点を当てて、昭和30年代の高度経済成長期以前も含めて時系列的に解析した。

*①廃棄物資源循環学会との共催セッション「日本の3R体験を国際貢献に生かすために」

(平成22年11月6日、金沢市文化ホール、参加者50名)

②3R・循環セミナー「日本の3R体験～海外に何を伝えるか～」

(平成23年2月18日、都道府県会館、参加者66名)

また、3Rという市民生活に密着した施策を進めるにあたっては、それぞれの国の習慣、価値観など社会文化的な規範の差異が大きく影響すると考えられるので、在日外国人、国際協力専門家を対象にアンケート調査を実施し、併せて今までに行ったヒヤリング結果をもとに、日本とアジア諸国等との社会的、文化的なギャップのもとでの日本の3R体験の移転促進方策について研究を実施した。

なお、研究にあたっては、代表研究者、共同研究者に協力研究者を加え、下記のように委員会を組織して5回開催し、幅広く意見・情報を交換しつつ実施した。

代表研究者	八木 美雄	(財) 廃棄物研究財団専務理事	(総括・行政)
共同研究者	大澤 正明	(財) 日本環境衛生センター理事	(事業・海外)
	山本 耕平	ダイナックス都市環境研究所所長	(市民運動)
研究協力者	稲村 光郎	廃棄物資源循環学会ごみ研究部会幹事	(リサイクル史)
	溝入 茂	早稲田大学客員教授(非常勤)	(法制史)

3. 研究スケジュール

研究の進め方等を調整するため研究委員会を5回開催するとともに、セミナー、セッションを各2回行った。

第1回研究委員会

日 時：平成22年5月21日(金) 15:00～17:00

場 所：廃棄物研究財団 会議室

議 題：21年度報告書の配布、研究計画等

第2回研究委員会

日 時：平成22年7月28日(金) 14:00～17:00

場 所：廃棄物研究財団 会議室

議 題：各委員の研究計画と成果発表、廃棄物資源循環学会セッション、廃棄物史の作成等

セミナー①：「有機性廃棄物の有効利用と処理の変遷 1950～2000」

廃棄物資源循環学会「ごみ研究部会定例研究会」と共同開催、参加者12名

日 時：平成22年8月7日(土) 14:00～16:00

場 所：廃棄物研究財団 会議室

講 師：稲村光郎（廃棄物資源循環学会・ごみ文化研究部会）

第3回研究委員会

日 時：平成22年9月24日(金) 14:00～17:00

場 所：廃棄物研究財団 会議室

議 題：研究成果の中間発表、アンケート、廃棄物資源循環学会セッション、廃棄物史の作成等

セッション①「日本の3R体験を国際貢献に生かすために」

廃棄物資源循環学会「ごみ文化研究部会」との共同開催

日時：平成22年11月6日(土) 9:00～10:30

場所：金沢市文化ホール3F、第5、6会議室、

講師：八木（廃棄物研究財団）「日本の3R制度・技術・経験の変遷に関する研究」

小島（アジア研究所）「日本の3R経験と産業政策」

松本（北九州市立大学）「エコタウン事業と国際貢献の経緯」

藤井（廃棄物研究財団）「途上国における3Rと日本の目指す循環型社会」

参加者：50名

第4回研究委員会

日 時：平成22年12月17日(金) 14:00～17:00

場 所：廃棄物研究財団 会議室

議 題：研究成果の中間発表、セミナー、廃棄物史の作成等

セミナー②：「わが国初のフェルント式焼却炉の導入について」

廃棄物資源循環学会「ごみ研究部会定例研究会」と共同開催、参加者15名

日 時：平成23年1月29日（土） 15：30～17：30

場 所：廃棄物研究財団 会議室

講 師：中野正満（元三井物産）

第5回研究委員会

日 時：平成23年2月18日（金） 10：30～12：00

場 所：廃棄物研究財団 会議室

議 題：研究成果のとりまとめ等

セッション② 3R・循環セミナー「日本の3R体験～海外に何を伝えるか～」

日時：平成23年2月18日（金） 13：30～16：30

場所：都道府県会館、402会議室、

研究発表とパネルディスカッション

八木（廃棄物研究財団）「日本の3R体験及び移転促進に関する研究」

溝入（早稲田大学）「3Rのごみ処理史のあれこれ」

稲村（廃棄物資源循環学会）「産業界&産業政策による3Rの60年」

大澤（日本環境衛生センター）「リサイクル・3Rという言葉の誕生と変遷」

山本（ダイナックス都市環境研究所）「NGOによる3R体験の移転」

参加者：66名

4. 研究成果

研究成果は、II. 概要編、III. 各論編に分けてとりまとめた。

研究全体の取りまとめ・調整は、代表研究者・八木美雄が行い、下記のとおり、研究担当者がそれぞれ分担分を整理・執筆したもので、意見にまたがる部分については研究担当者の個人的見解によるものである。

なお、今日的観点からすると誤解を招きやすいと思われる表現（くずや、バタヤなど）もあるかもしれないが、当時の資料を引用したことによるものであり、研究担当者が意図的に新たに表現したものではないことを最初に記しておくことにする。

I. はじめに	八木 美雄
II. 概要編	八木 美雄
III. 各論編	
A. 産業における3R—資源制約から環境制約の時代へ—	稲村 光郎
B. 第二次大戦下の3R—戦時下のごみ、資源回収の実相—	溝入 茂
C. リサイクルという言葉の誕生と変遷、その意義と課題	大澤 正明
D. ケーススタディ： エコタウン、NGOによる3R経験の移転	山本 耕平
E. 諸外国に日本の3R体験をどう伝えるか	八木 美雄
IV. 結論	八木 美雄
V. 発表	八木 美雄